

人と地域でつながる街づくり

社会福祉法人 寿康会

〒891-1304 鹿児島市本名町 234

助成事業の概要

本セミナーは、近年増加する発達障害児やその支援ニーズに対応し、子どもの健全な発達と地域全体での支援体制の充実を目指すよう取り組みました。障害児通所支援利用者の増加や子育て世代の悩み・不安が背景にある中、幼保や教育現場での支援スキルの向上を図り、保護者や教職員、療育・児童関係事業所職員が連携して子どもの権利や個性を尊重した環境づくりに寄与するため、先進的な実践者な講師として一色翔太氏を招きました。

活動は、1.子どもの行動の本質を探る「困った行動への関わり方」、2.遊びや睡眠の質が子どもの成長に与える影響を考察する「子どもの遊びと睡眠」、3.子育て・保育・療育の悩みを専門家と共有する「親と先生のためのお悩み相談」、4.子どもの成長を伸ばす具体的な方法を学ぶ「子供の力を伸ばすための7つの方法」の4回にわたり、多角的な視点と実例を通じて支援の充実を図りました。

事業の成果

本事業は、子どもの育ちに関わる全ての方々を対象に、発達に関する知識や支援方法を学ぶ機会を提供し、子どもたちが健やかに育ち、過ごせる環境づくりに貢献することを目的として実施いたしました。

講師には一般社団法人結色の一色翔太代表をお迎えし、各回異なるテーマでセミナーを実施しました。

第1回「子どものひみつを知ろう！子どもの困った行動へのかかわり方」では、子どもの行動の背景にある理由を深く掘り下げ、「困った行動には必ず理由がある」という視点を提供しました。参加者からは、自身の支援を振り返るきっかけになったという声が多くありました。

第2回「子どものひみつを知ろう！子どもの遊びと睡眠」では、遊びと睡眠の密接な関係や、子どもの自発性の重要性について解説しました。参加者からは、「睡眠の大切さ」を再認識したという意見や、「遊びは楽しいと感じるすべてのこと」という捉え方が印象に残ったという感想が寄せられました。

第3回「親と先生のためのお悩み相談セミナー」では、少人数制を活かし、参加者からの具体的な悩みに一色氏が個別にアドバイスをを行いました。具体的な事例に基づいた専門家からの助言は、参加者の悩み解決への糸口となりました。

第4回「子育てをもっと自由に！子どもの力が伸びる7つの方法」では、「子供の力が伸びる7つの方法」を詳細に解説しました。具体的には、共に真似して共に感じる、リアクション、自分で発信する、経験する、自分で責任を取る、褒めるから認めるへ、言葉を大切にするという視点が提示され、参加者からは「大切なことは大人がリアクション（ミラーリング）すること」という学びや、「子どもたちの経験のチャンスを奪わないよう、声のかけ方を工夫していきたい」

という意欲的な感想が寄せられました。

アンケートでは、講師の熱意ある語り口や具体的な解説が好評で、子どもの行動への新たな視点や日々の関わり方の見直しにつながったとの意見が多数寄せられました。特に、子どもの感情理解や、子どもが自分で考える力を育むことの重要性が認識されました。

本事業の成果として、参加者は子どもの発達に関する知識を深め、困った行動への理解を深め、より効果的な支援を提供するための具体的な視点と方法を学ぶことができました。保護者や家族の心理的負担の軽減にも貢献することが期待されます。

本セミナーが、地域の子どもたちの健やかな成長と、子育てに関わる方々のより豊かな支援に繋がる一助となれば幸いです。

成果の広報、公表

本活動では、各回約1,000枚のチラシを印刷し、始良市および近隣地域の療育関係事業所、保育園、幼稚園、小中学校、公民館、児童館、子ども食堂、子育て支援センター、社会福祉協議会など関係各所に配布しました。また、始良市コミュニティ協議会のご協力を得て、回覧板を活用した広報活動も実施しました。

さらに、会場とWebのハイブリッド形式によるセミナーを開催し、特に地理的な観点により離島での参加機会が限られている屋久島、種子島、十島村、三島村の各地域にセミナーのご案内を送付することで、多くの方々にWebでご参加いただきました。Instagramを活用した広報活動も行っており、県外からの参加者も確認されました。今回の活動状況をまとめた報告書を作成し、関係

各所へ配布することで、活動の様子を広く公表してまいります。

今後の展開

地域の中で、安心して子育てに取り組める環境をつくる。障がいの有無に関係なく、誰もが健やかに、共に成長できる地域づくりに取り組む。これらのテーマを掲げ、講師の協力を得て、活動を進めて参りました。本事業で開催した各セミナーには様々な立場の方が参加され、これまでとは違った視点で子育ての悩みや不安と向き合い、また、新たなアプローチ方法を知り、それぞれに考えさせられたこと、気付いたことがあった様子。本事業を通じ、「子育ての悩み」の多くは、子ども達の成長や行動を「大人の眼鏡（都合）」で見て、無意識のうちに「大人にとって子ども達がどうあるべきか」という基準で測ってしまうことも要因の一つだと感じました。また、講師の話聞き、子育てとは「子ども達が自分の未来を自分でつくる力を養う」ために行うものであり、その過程を保護者と子ども達が共に歩み、楽しむことが大切だと感じました。今後は本事業を通じて学び得た「視点」や「考え方」を広く伝え、地域の中で楽しく子育てができる、子ども達が成長できる環境づくりに寄与します。